

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	東淀川区
学 校 名	大阪市立豊新小学校
学校長名	高品 勝年

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・豊新小学校では、第6学年 70名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全国学力・学習状況調査は、過去2年間で全国平均に迫りそして全教科で超えることができていたが、今年度の平均正答率は、国語68%と全国平均0.8%よりかろうじて高かったが、算数は58%と全国平均62.5%より4.5%も下回った。

過去の調査結果から、本校児童は算数科を苦手とする児童がみられることから、今年度から研究教科を算数科に変更し、取組を進めている。

今後も、基礎的基本的な内容を重視し、「やりきらせること」「全員理解」を目標に取り組んでいく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

言葉の特徴や使い方に関する事項は、平均正答率は全国平均より1.6%低い、「読むこと」に関しては、5.9%高い。このことから、本校児童は、文章を読み取ることや思考判断し、表現する事項は得意とする傾向があるが、言葉の特徴やきまりに関することは苦手とする児童が多い。

〔算数〕

どの領域もまんべんなく回答できているが、図形の領域、特に思考判断・表現に関する問題は、正答率が低い。本校児童は、数や計算よりも、平面や立体の形を捉えることに苦手としている。

質問紙調査より

「自分には良いところがある」という自己肯定感、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」という自己有用感は、肯定的回答がそれぞれ82.2%、89.7%と全国の回答の割合とほぼ同じで、本校児童は、年々自己肯定感や自己有用感が高くなって来ているといえる。

また、「外国のことをもっと知りたい」「外国の方に日本をもっとしてもらいたい」と肯定的に回答する児童は、それぞれ71.3%・75.8%であったが、「英語が好きだ」と肯定的に回答する児童は、67.5%と若干さがる。児童の興味関心を生かした英語活動の工夫が必要である。

今後の取組(アクションプラン)

- ねらいを分かりやすく示しながら、どの児童も参加していける導入を工夫したり、児童の考えを引き出すような発問はもとより、授業を振り返り学習内容の定着を図る板書やまとめを工夫したりする等の授業改善を進め指導力を高める。
- 習熟度別授業を始めとした少人数指導の拡充を進め、個に応じた指導の充実を図るなど指導方法の改善に努める。
- 「学習教材データ配信」等を活用し、各教科の基礎的・基本的内容の定着率を高めるとともに、考えや意見を伝え合う話し合い活動や“書く”習慣を付ける活動を授業に取り入れながら学習内容の活用を図る授業を行う。
- 学習習慣を向上させる指導の徹底化を図る。

これらを通して、主体的で対話的な学びを進めていくと同時に、児童の意欲や興味・関心を生かし、発見することの楽しさ、学ぶことの楽しさを今後も味わわせていく。